

「仕掛学」 ～行動変容の理論と実践の研究～

経済学研究科

教授 松村 真宏



▶ 特徴・独自性

松村研究室で研究している仕掛学は、人の行動を変える「仕掛け」を対象にした新しい学問分野である。仕掛けは行動変化を強制するのではなく、魅力的な行動の選択肢を増やすことで目的の行動に誘うアプローチをとる。例えば、ゴミ箱をただ設置してもゴミを捨てたくはならないが、ゴミ箱の上にバスケットゴールを付けるとゴミでシュートしたくなり、結果的にゴミ捨て行動が促進される。

松村研究室では、さまざまな現場を対象にして実際に仕掛けを考案して製作し、実際の現場で実験し、効果の検証に取り組くことを通して、行動変容の理論と方法の構築に取り組んでいる。



ゴミ箱の上にバスケットゴールがあると
ゴミでシュートしたくなる

▶ 社会実装と実用化への可能性

仕掛学はマーケティングなどさまざまな分野に応用が可能であり、鉄道駅やショッピングセンターでの人流制御など、実際の現場での実証実験なども積極的に推進中である。



つい手を突っ込みたくなる
ライオン口型手先消毒器

特許

論文

Naohiro Matsumura, Renate Fruchter, Larry Leifer (2015) Shikakeology: Designing Triggers for Behavior Change, *AI & Society*, Springer Verlag, Volume 30, Issue 4, pp. 419-429. c. 30(4): 419-429 (November 2015)

参考URL

http://www.osaka-u.ac.jp/ja/news/storyz/special_issue/research_topic_nl75/201703_special_issue03

キーワード

仕掛け、行動、変化、行動理論